

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和 7年 6月27日	
宇都宮市長 佐藤 栄一 殿	
提出者	
住 所 宇都宮市河原町1番41号	
氏 名 宇都宮市	
上下水道事業管理者 大竹 信久	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
電話番号 028-633-2001	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	宇都宮市上下水道局 川田水再生センター
事業場の所在地	宇都宮市川田町240番地
計画期間	令和 7年 4月 1日 ~ 令和 8年 3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	下水道処理施設維持管理業
②事業の規模	処理水量：61,184,731m ³ /年 処理能力：159,300m ³ /日
③従業員数	47人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1のとおり

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項			
(管理体制図) 別紙2のとおり			
産業廃棄物の排出の抑制に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	203,760 t	t
	(これまでに実施した取組) 施設の適正な運転管理		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	排出量	204,215 t	t
	(今後実施する予定の取組) ①現状と同様		
産業廃棄物の分別に関する事項			
①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 定期的な成分分析により、分別の確実性を確認する		
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) ①現状と同様		

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	187,323 t	t
	(これまでに実施した取組) 脱水による排出量の削減		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	186,604 t	t
	(今後実施する予定の取組) ①現状と同様		

(第4面)

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	0 t	t
	(これまでに実施した取組) なし		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	0 t	t
	(今後実施する予定の取組) なし		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（令和6年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	全処理委託量	16,437 t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	2,957 t	t
	再生利用業者への処理委託量	16,126 t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 全処理委託量の多くを再生利用業者へ処理委託		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	全 処 理 委 託 量	17,611 t	t
	優良認定処理業者への 処 理 委 託 量	3,362 t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量	17,300 t	t
	認定熱回収業者への 処 理 委 託 量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処 理 委 託 量	t	t
	(今後実施する予定の取組) ①現状と同様		
	※事務処理欄		

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

【調査票1】汚泥処理フロー図(令和6年度実績)

都道府県名 栃木県
市町村名 宇都宮市
処理場名 川田水再生センター

浄化槽汚泥等受入施設

51,084 m³/年
固形分 0.95%

生汚泥
646,645 m³/年
固形分 0.49%

濃縮

消化

脱水

濃縮汚泥
203,449 m³/年
固形分 3.48%
= 203,449 × 0.0348
= 7,080 DS-t/年

脱水汚泥
16,126 ケーキt/年
含水率 82.6%
有機分 80.6%
16,126 × (1 - 0.826) × (1 - 0.806)
= 544 無機分DS-t/年

余剰汚泥
552,607 m³/年
固形分 0.46%

機械濃縮

脱水汚泥計 16,126 ケーキt/年

資源化工場搬出脱水汚泥
12,176 ケーキt/年
含水率 82.6%
有機分 80.6%
12,176 × (1 - 0.826) × (1 - 0.806)
= 411 無機分DS-t/年

民間搬出脱水汚泥
1,997 ケーキt/年
含水率 82.6%
有機分 80.6%
1,997 × (1 - 0.826) × (1 - 0.806)
= 67 無機分DS-t/年

民間搬出脱水汚泥
837 ケーキt/年
含水率 82.6%
有機分 80.6%
837 × (1 - 0.826) × (1 - 0.806)
= 28 無機分DS-t/年

民間搬出脱水汚泥
467 ケーキt/年
含水率 82.6%
有機分 80.6%
467 × (1 - 0.826) × (1 - 0.806)
= 16 無機分DS-t/年

民間搬出脱水汚泥
649 ケーキt/年
含水率 82.6%
有機分 80.6%
649 × (1 - 0.826) × (1 - 0.806)
= 22 無機分DS-t/年

川田水再生センター内 引渡し先

← →

現 物 量	発 生 時 D S 量【 単 位 : D S - t / 年 】
セメント化 資源化工場	12,176 ケーキt/年 $7,080 \times 12,176 / 16,126$ = 5,346 [DS-t / 年]
セメント化 民間	1,997 ケーキt/年 $7,080 \times 1,997 / 16,126$ = 877 [DS-t / 年]
セメント化 民間	837 ケーキt/年 $7,080 \times 837 / 16,126$ = 367 [DS-t / 年]
セメント化 民間	467 ケーキt/年 $7,080 \times 467 / 16,126$ = 205 [DS-t / 年]
堆肥化 民間	649 ケーキt/年 $7,080 \times 649 / 16,126$ = 285 [DS-t / 年]
7,080 DS-t/年	

別紙 2 : < 廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項 >

